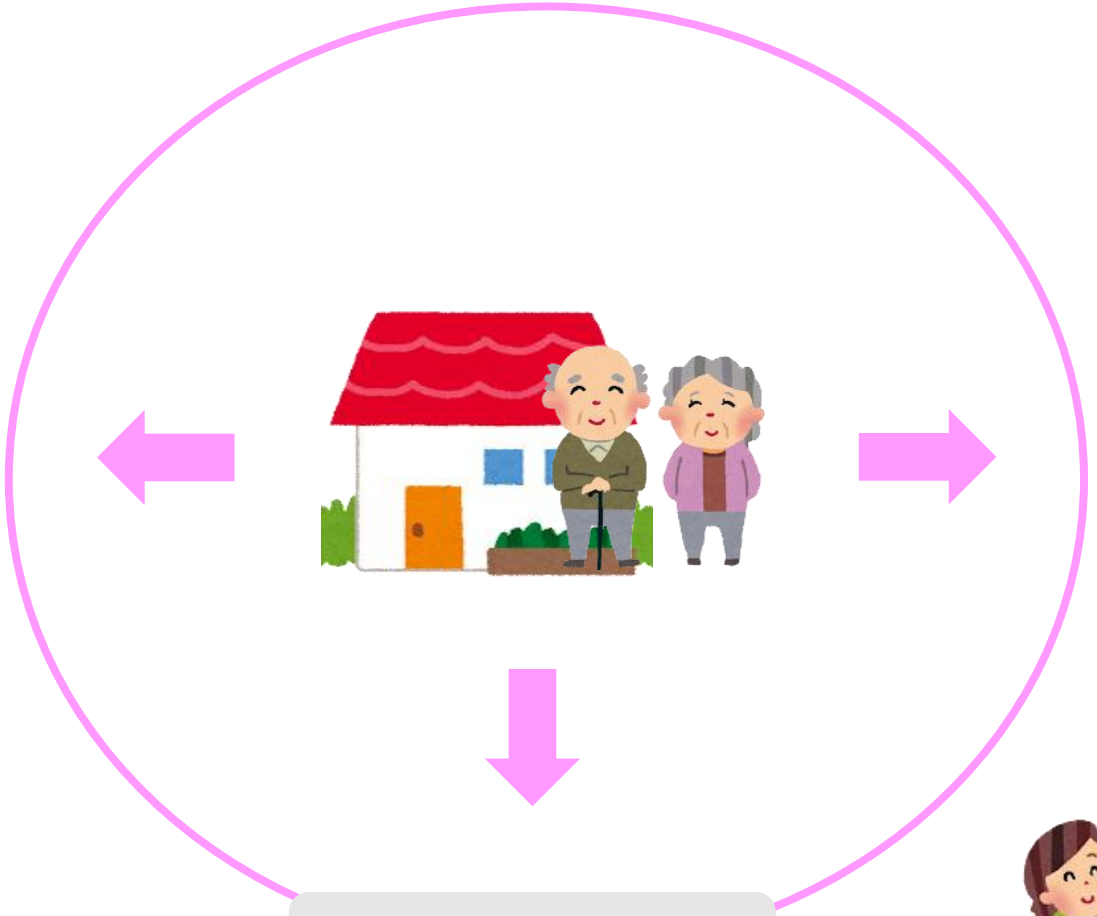
小規模多機能型居宅介護

社会福祉法人　しあわせ

小規模多機能型居宅介護は「通い」「宿泊」「訪問」の3つのサービスを
1つの事業所が“月定額料金”で提供する介護サービスです。

通い



訪問介護

泊り

登録定員は２９名。登録者２９名で、通所１８名（１日）、お泊り９名（１日）、訪問介護を分け合って利用して頂きます。

１人が利用しすぎると他の利用者が利用できなくなります…

みんなが利用できるように、みんなで仲良く分け合おう！

小規模多機能型居宅介護の特徴

✓１つの事業所で「通い」「訪問」「泊り」のｻｰﾋﾞｽを
　顔なじみの職員が提供

✓月定額料金

✓３６５日利用可能、利用時間も自由

小規模多機能型居宅介護が向いている方

✓お泊りのﾆｰｽﾞがある

定期的なお泊りや緊急時のお泊りの他、退院後の在宅復帰までの連泊利用が可能。

✓利用日、利用時間を自由に選択したい

決められた日時での利用、長時間の利用が苦手な方は自分のペースに合わせた利用が可能。

✓色々な事業所、職員と接するのが苦手

「通い」「訪問」「泊り」のｻｰﾋﾞｽが１事業所で提供され、顔なじみの職員が対応することで安心。

小規模多機能型居宅介護が向いていない方

✓リハビリをしっかりしたい
　リハビリの専門職がいない
　通所リハビリが併用できない
✓訪問介護をたくさん利用したい
　小規模の職員が全てのｻｰﾋﾞｽを行うので
　長時間の対応、頻回な訪問が難しい
✓色々なサービスを利用したい
「通い」「訪問」「泊り」のｻｰﾋﾞｽが１事所で提供されるので、他に使えないサービスがある

➪<u>在宅サービスの利用をお勧めします</u>

事例 ①
「困ったなぁ～、どうしよう～」　そんな緊急時でも”小規模“なら安心！

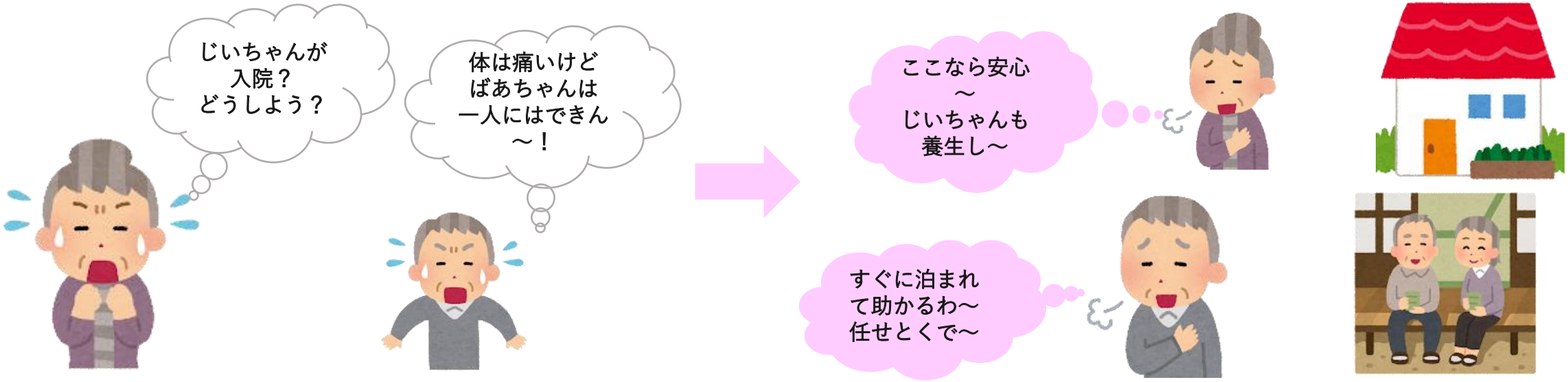
要介護１　女性　82歳　夫との二人暮らし。

高齢の夫が認知症のある妻を介護。妻は小規模多機能サービスを「通所」を中心に利用中。

ある日、夫が体調を崩し急遽入院が必要となるが、妻が心配で入院を拒んでいる。

➪緊急で小規模多機能の「お泊り」サービスを利用することに。通いなれた場所で、いつもの顔なじみの職員が対応するので夫も安心。再度契約や新しい人の訪問などの手間もありません。

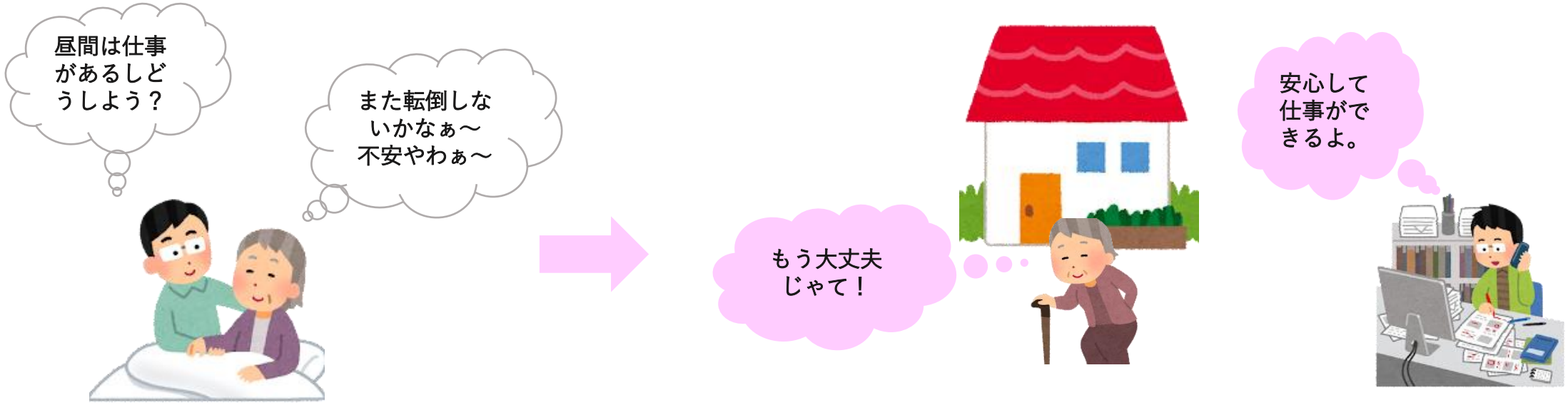
本人も通いなれた場所、顔なじみのスタッフなので穏やかに過ごすことができました。



事例 ②
退院後、「連泊」を利用して自宅への復帰を後押し！

要介護２　女性　８５歳　息子さんとの二人暮らし。

大腿骨骨折により入院。退院後は自宅に帰りたいが、長期入院により身体機能の低下がみられ自宅に帰ることに不安がある。
➪退院後、小規模多機能サービスの連泊を利用し、徐々に自宅生活に慣れて頂くこととなる。自信がつくにつれて宿泊の回数を減らし、通い中心の利用に変更。息子さんの用事のある時はお泊りサービスも利用しながら、今も息子さんと仲良く暮らしています。

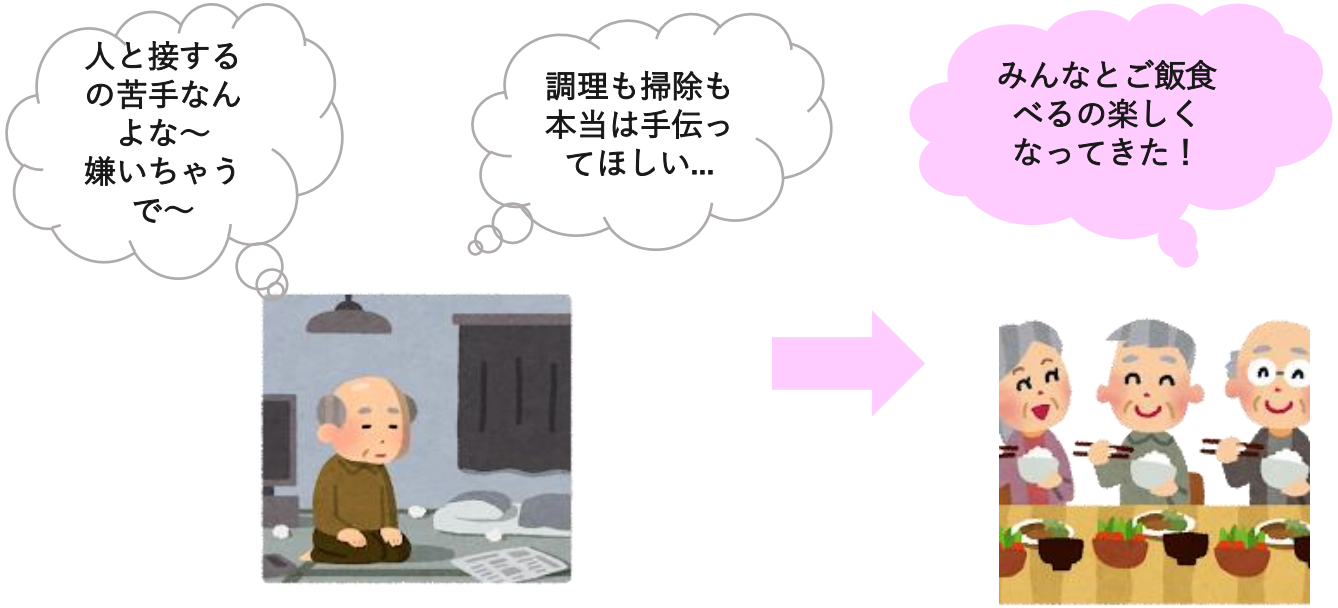


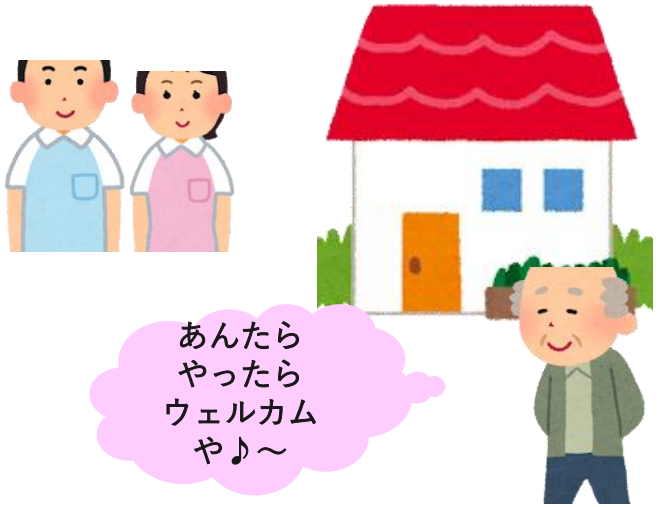
事例 ③
自由な利用、顔なじみの職員対応で苦手をクリア！

要介護１　男性　８０歳　一人暮らし

精神面に不安があり、他者との交流が苦手で地域でも孤立気味。家事も不得意で環境面、栄養面にも問題がある。

➪小規模多機能サービスで毎日、朝・昼・晩の食事の時間に「通所」を利用し栄養面を改善。利用するにつれ職員にも慣れ、今では「訪問」も利用できるようになり家も綺麗になりました。





事例 ④
家族の絆を！　複合サービスで家族を支援

要介護４　女性　７６歳　娘夫婦と同居

娘夫婦と仲良く暮らしていたが、脳梗塞を発症、右半身に重度の麻痺が残る。住み慣れた自宅で娘夫婦と暮らしたいが夫婦とも朝から晩遅くまで働いており介護が難しい。

➪小規模多機能ｻｰﾋﾞｽで月・火曜日「訪問介護」「通所介護」、水曜～金曜「お泊り」を利用。週末は娘さん夫婦が介護することで家族仲良く暮らせています。もちろん、娘さん夫婦の疲れが溜まらないよう臨機応変にサービスを組み替えさせて頂いています。

これからの高齢者介護は、いかに住み慣れた**自宅**と**地域**で安心して生活し続けられるかが大きなポイントです。

あらかじめ決められたサービス、支援の方法にこだわり過ぎず、その時の状況に応じて上手に切り替えられる柔軟性が小規模多機能型居宅介護にはあります。これは、利用者の満足度を高めるだけでなく、

「いつでも頼れる施設がある」という、自宅で生活するすべての高齢者の**「安心感」**につながるのではないでしょうか。

「住み慣れた自宅と地域で生活し続けたい」と願う人々の生活を支える、それが **小規模多機能型居宅介護** です。